



Title	後輩のみなさんへ : 35年の保健師活動を振り返って
Author(s)	高崎, 充代
Citation	大阪公衆衛生. 2020, 91, p. 24-26
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/78702
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

後輩のみなさんへ ～ 35年の保健師活動を振り返って～

高崎 充代

吹田市健康医療部北大阪健康医療都市推進室主幹
(吹田市健康づくり推進事業団派遣職員)

私は、保健師として、保健師業務が確立していた大阪市とその仕事が始まって間もない吹田市で35年間勤務しました。主に人口37万人都市である吹田市で取り組んできた事業を振り返り、後輩へのメッセージとさせていただきます。

1 家庭訪問を通じて個別支援の経験を蓄積し、コミュニケーション能力を磨く

〈昭和53年(1978年)4月～昭和57年(1982年)12月：保健師歴4年まで〉

大阪市平野保健所、東住吉保健所に勤務

この当時、保健所実習が終わる時にはその保健所ですぐに働けるぐらい、丁寧な実習を経験することができた時代でした。

保健師になり保健所に配属された時は、学校や実習で学んだことを、とにかく実践したいという思いで家庭訪問に出かけていました。この政令市の保健所勤務が保健師業務全体を知る良い経験となりました。

以後4年余り子育てに専念しましたが、この経験もその後の「子育て支援」の業務に活かすことができました。

2 具体的な個別支援から地域課題への対応、解決のための多職種連携から事業化へ

〈昭和61年(1986年)4月～平成12年(2000年)3月：保健師歴18年まで〉

吹田市環境保健部保健課、保健センターに係員、主査として勤務

吹田市は、1歳6か月児健診の実施について5年以上にわたって検討し、昭和62年(1987年)4月に事業をスタートさせました。その時には、医療・保健分野のみならず保育分野、療育分野等と連携する分野横断的システムが構築されていました。核家族化の時代、我が子を抱くまで赤ちゃんに接することなく母親になる人がほとんどです。1歳6か月頃は我が子の成長を喜び、また悩むことに凝縮された時期であり、保健師の私も大いに悩んだものです。健診に臨み、口頭指導だけでは限界があり、悩めるお母さんに何とか自信を付けてもらえないかと悩んでいた頃、保育士の方々が中心となって保育所の施設を活用し、「育児教室」をモデル的に実施してくれました。最初に保育所に働きかけてくれたのは当時の保健所の保健師さんたちでした。育児教室を紹介して、救われたお母さんは数知れないと思います。後に、保育所に

「地域子育て支援センター」の看板を掲げ、「育児教室」は制度として定着していきました。

平成9年（1997年）に決まっていた母子保健事業の市町村移管の前に、保健師の業務体制について、業務別・地域担当制をとることを提案しました。母子保健に手をとられ、成人・高齢者保健事業が後回しになることを懸念したからです。

反対も多くありましたが、当時の判断は間違っていないかと思っています。

業務別・地域担当制が敷かれた後、高齢者保健を担当していた若い保健師さんたちの「自宅に閉じこもっている高齢者に何とか外出してもらいたい」という思いを形にしたのが、「外に出よう会」でした。月に一度、小学校地域交流室や公民館等を会場とし、介護教室を受講した地域住民がボランティアとなり、みんなで協力し実施しました。これが後に、中学校区ごとの「B型機能訓練事業」の原型となりました。

また、寝たきり高齢者の口腔ケアを進めるための制度がなく、篤志のある歯科医師の個人の力に頼っていましたが、市の医療審議会の付帯事項になったことで検討を開始しました。医師会、歯科医師会、薬剤師会等による検討会で内容を吟味していただき、当時では全国にも他に例のない健診に力点を置く「寝たきり高齢者等訪問歯科事業」をスタートさせることができました。歯科医師会の先生方とは、診療時間終了後に、具体的な事業内容について検討したので帰宅が夜遅くなり、家族によく叱られたことを覚えています。

3 吹田方式の乳幼児健康診査～専門職の役割分担と連携～

〈平成12年（2000年）4月～平成19年（2007年）3月：保健師歴26年まで〉

吹田市保健センター主幹、参事として勤務

平成9年（1997年）の母子保健事業の市町村移管時、吹田市の4か月児健診は個別健診でした。

1歳6か月児健診、3歳（6か月）児健診の実施方法も含め「乳幼児健診の在り方検討会」を立ち上げ、関係機関、関係部署等とで検討を重ね、個別方式と集団方式を併用した「吹田方式」の乳幼児健診を実施することができました。

この検討を通じて、改めて、乳幼児の発育、発達の確認、疾病の早期発見、そして育児支援に関して、医師を含む多職種、多方面の機関等が一体的に「親子を支える」ことの重要性を認識しました。

4 地域包括支援センター業務の確立とアウトソーシング、地域支援事業強化への対応

〈平成19年（2007年）4月～平成29年（2017年）3月 保健師歴35年まで〉

吹田市地域福祉室参事、高齢支援課長、福祉部総括参事として勤務

平成19年に福祉部に異動しました。早くから保健センター以外への異動を希望していましたが、20年目でやっと夢がかないました。本当はもっと若い時に異動したかったのですが・・・。

平成18年（2006年）4月に地域包括支援センター（以下、「包括」）が設置され、地域支援事業として地域の高齢者を総合的に支援する仕組みがスタートしました。スタート当時、吹田市の「包括」は直営であり、要支援者のケアプランの作成に時間を要し、高齢者への支援は介護保険サービス頼りになり、本来の予防的支援ができていたとは言えない状態、包括業務をどう進めれば良いのか悩みました。当時は、認知症への相談が急増していましたが、その支援は、個別、家族、集団、地域を対象とし、予防から重度まで病状のレベルに即して対応していました。このことは、他の高齢者支援にも当てはまることが多々あることに気づき、認知症への支援方法を基本に総合相談、権利擁護、介護予防等包括業務の進め方を、主任介護支援専門員、社会福祉士、保健師の三職種で検討し、介護保険事業者の意見も聞きながら業務の確立に努めました。

包括業務の確立途上、包括のアウトソーシングにも取り組むことになりました。市の内部では前例のない委託内容であったので、他市の取組みを参考に手探りで進めました。このアウトソーシングの過程の中で、市民がどれだけ「市役所」に信頼を置いておられたのかを実感しました。包括業務のアウトソーシングにおいては、包括を受託した法人が、支援が必要な市民に対して必要な時に、必要な支援が行えるように、市の責務としてこれらの法人をバックアップできる体制を確保するため、職員配置の充実を図るため定数を所管する部門に粘り強く交渉しました。

その後、地域支援事業の強化が図られ、認知症総合支援事業、在宅医療介護連携推進事業を実施することになった際には、医療と介護の第一線で活動する現場の方々と十分に意見交換をし、検討を進めました。この時には、信頼関係を築けた「包括」を受託した法人が事業の趣旨を理解し、事業化に協力していただきました。

平成27年4月に施行された改正介護保険法によ

る新しい総合事業では、「要支援の人は介護保険サービスが使えなくなる」という誤った情報が一人歩きし、市民に不安を与えました。この誤解を解くために、法改正の目的が介護保険の理念に沿った高齢者の自立支援に立ち返ることであり、「自立支援型ケアマネジメント」の重要性について、市民や介護保険事業者に伝えることに注力しました。そして、介護保険サービスの提供量を制限するのではなく、自立支援に重点を置いた内容で事業が展開できるよう準備をしていた段階で、退職を迎えました。

5 おわりに

現在、私は、奇しくも吹田市健康づくり推進事業団への派遣職員として、保健師業務の原点とも言える「健康づくり」業務に従事しており、行政とは違う立場でどのような役割を担うべきか検討しています。正直言って、非常に難しい仕事です。

35年の保健師活動を振り返って、保健師のみなさんに伝えたいことは、まずは個別支援を丁寧に行い、その時出会った地域住民や関係機関との関係を大切にすることです。個別支援の積み重ねから地域課題を把握し、この解決の方法を考える時に、その人達がきっと助けてくれるからです。

今は、様々なデータを活用できるようになりました。普段から、担当地域も含めて、市の特徴、課題を分析しておくことが大切です。国の方針で必ず実施しなければいけない事業であっても、勤務する市の特徴、課題を踏まえた事業内容を作り上げる必要があります。

個別支援から地域づくりまでを担う職種は、今や保健師だけではなくなっています。対象者や地域の状況も複雑になり、保健師だけで解決できることにも限界があります。そんな時に、行政内や地域にどれだけネットワークを持っているかが重要です。特に、市民は力を持っていることは、保健師なら既に気付いておられると思います。

課題解決に対して、答えはあるはず、あきらめない、できない理由を探さない、それが保健師だと思います。

そして、事務職を味方につけましょう。身近な職員に自分の仕事を理解してもらえないならば、市民には理解してもらえません。

来年度、吹田市は中核市に移行し、保健所も設置されます。準備に奔走するみんなの姿を傍で見っていますが、とても力強く頼もしい限りです。

保健師の皆様の活躍を心から期待しております。